

2012年度 第7回すばる小委員会議事録

日時：2013年3月19日（火）午前11時05分より午後2時（JST）

場所：国立天文台三鷹すばる棟2階会議室（ハワイ観測所とTV会議接続）

出席者：青木和光、秋山正幸、岩室史英、柏川伸成、嶋作一大、高遠徳尚(午後のみ)、
高田昌広、田村元秀、深川美里、本原顕太郎、吉田道利（以上三鷹）
有本信雄、臼田知史、大橋永芳（ハワイ観測所からTV会議接続）

ゲスト：共同利用担当 竹田洋一氏（所長報告の項のみ）

欠席者：片坐宏一、中村文隆

書記：吉田千枝

1 所長報告

1.1 TUE（主焦点交換機構）の不具合について

3月初めからTUEが使用できなくなっているため、観測スケジュールを変更して共同利用を継続している。

1.2 HSCの進捗について

臼田委員：HSCは順調だ。壊れたケーブル巻き取りは修理が進んでいる。真空度の問題についてはまだ作業中だがかなり改善されている。5月に観測再開できそうだ。

Q：真空度が改善したということはいろいろな部分から漏れていたのか？

A：いろいろな箇所を外して調べている。まだ他にもあるかもしれないので、調査を継続している。

Q：5月の試験観測は予定通りとのことだが、FEU（フィルター交換機構）はどうか？

高遠委員：台湾が作り直したFEUがハワイに到着しつつある。到着後は山頂で1000回試験をやる予定だ。5月の試験観測にFEUが間に合うかどうかは微妙だ。

1.3 Keck20周年記念式典 参加報告

所長：プログラムを見ていただくとわかるが、第一線の研究者が多数講演している。全て一般向けの講演会だった。すばるのアウトリーチの参考になった。

2 「すばるの学校」の韓国開催について

SAC 委員長：これまで日本で年 2 回実施していたもののうち 1 回を韓国でやることになる
のだろうが、日本人も参加するのか？

所長：日本人は対象にしない。自費での参加は構わないが。

青木委員：これまでいつも講師を確保するのが大変だった。装置は S-Cam が多かったが。
MOIRCS や HDS, COMICS でもやっている。これまでは三鷹の人に協力して頂
いたが、韓国開催となるとどうか。

Q：韓国で人気のある装置は何か？

所長：S-Cam, FOCAS, HDS あたりだろう（可視装置）。今年は京都大学で日韓合同 WS の
続きをやることになった。

C：赤外装置も入れてはどうか？

C：新しいユーザーの開拓になる。

C：赤外 MOS など掘り起こせば希望があるかもしれない。

C：MOIRCS や FMOS になる。

大橋委員：前回はコメントしたが、韓国だけでなく台湾ともやってほしい。

SAC 委員長：中国・台湾・韓国が対象ということだろう。

所長：東アジア版すばるの学校のプロトタイプとなる企画書を所内で準備したい。

大橋委員：電波分野で前例があるので、参考にするとよい。

Q：すばるの学校のレクチャーはどういう内容か？

青木委員：すばるの紹介から始める。院生対象の場合はサイエンスの紹介もする。

SAC 委員長：すばるに行ったこともない人が対象なので、レクチャーが必要だ。
すばるの学校アジア版を今年の冬の開催を目標にして企画したい。
韓国側の窓口はどなたか？

所長：KASI の Hwang Narae 氏だ。

SAC 委員長：台湾とか中国へのコンタクトはどうするか？

所長：観測所から企画書を準備して提案してみる。

SAC 委員長：では SAC からは青木委員を担当として、Hwang 氏との話し合いを進める。

3 PFS レビュー報告

高遠委員：

2/25-26 にヒロで 6 人のレビューワーによる PFS の PDR (Preliminary Design Review) が
行われ、PDR の基準は満たしているのだから次に進んでよいという結論になった。

レビューワーのコメントとしては、以下があった。

- ・銀河進化でスカイ引きの精度が 0.5%というのはチャレンジングなので、**science requirement** に戻って検討するように。
- ・予算上の要請で来年3月までにある程度の分光器を作らなければならないのは大変だが、無駄な努力にならないように実現しなさい。
- ・PDR も終わったので、NAOJ とのかかわりを積極的に強めてほしい（4月にNAOJのレビューがある）。
- ・ソフトウェアシステムの構築が遅れているので、人員も含めて強化しなさい。
（これは解析パイプラインではなく、観測装置制御システムについての言及）

PDR は全体についての評価だが、今後部分ごとの審査を進めていく。来年3月までに分光器のプロトタイプを一つ作らなければならない。

高田委員：(Science Requirement としては) 近赤で暗い天体を見たい。

高遠委員：まだ手探り段階で、リーズナブルな予算でできるかどうかわからない。

C：スカイ引きについて、他ではどのくらい引けているのか？

高田委員：BOSS は数パーセントだ。

岩室委員：原因不明のうねりがどうしても出る。ファイバーコネクタの部分の安定性が影響する。

高遠委員：ファイバーの FRD がわからないとなかなかできない。だんだんとれてきているので、もう少し進むと見通しが立つ。

C：来年できる部分の波長は青か赤だ(赤外ではない)。

Q：望遠鏡の改修というのはなにが必要なのか？

高遠委員：床張りとは制御系の改修だ。

4. LAMOST との連携について

所長：LAMOST についてまだ中国に打ち合わせに行っていないが、LAMOST について情報があれば伺いたい。

C：LAMOST で撮像した星のフォローアップ観測をすばるで一緒に行いたいと言われている。

C：日本人で LAMOST に関わっている人が少ない。

所長：中国と興味が一致するのは銀河考古学だろう。

SAC 委員長：関心のある人が集まって合同 WS をやるしかないだろう。

高田委員：中国は BigBOSS に加わっている。

秋山委員：LAMOST が 5/20 頃麗江で大きな WS をやるそうだ (IAU シンポジウム)。

所長：それに行くのも一法だ。

5 その他

所長：Keck20 周年行事で Sandra Faber 氏と話す機会があったが、Subaru-Keck 連携で TMT につながるようなことができるのではないかと言っていた。TMT で最初から大きなプロジェクトを走らせる準備として、ということだった。

*** 資料 ***

- 1 Keck20 周年記念式典プログラム
- 2 第6回すばる小委員会議事録